

話題提供

タイの教師教育改革

牧 貴愛

国際教育開発プログラム

広島大学大学院人間社会科学研究科

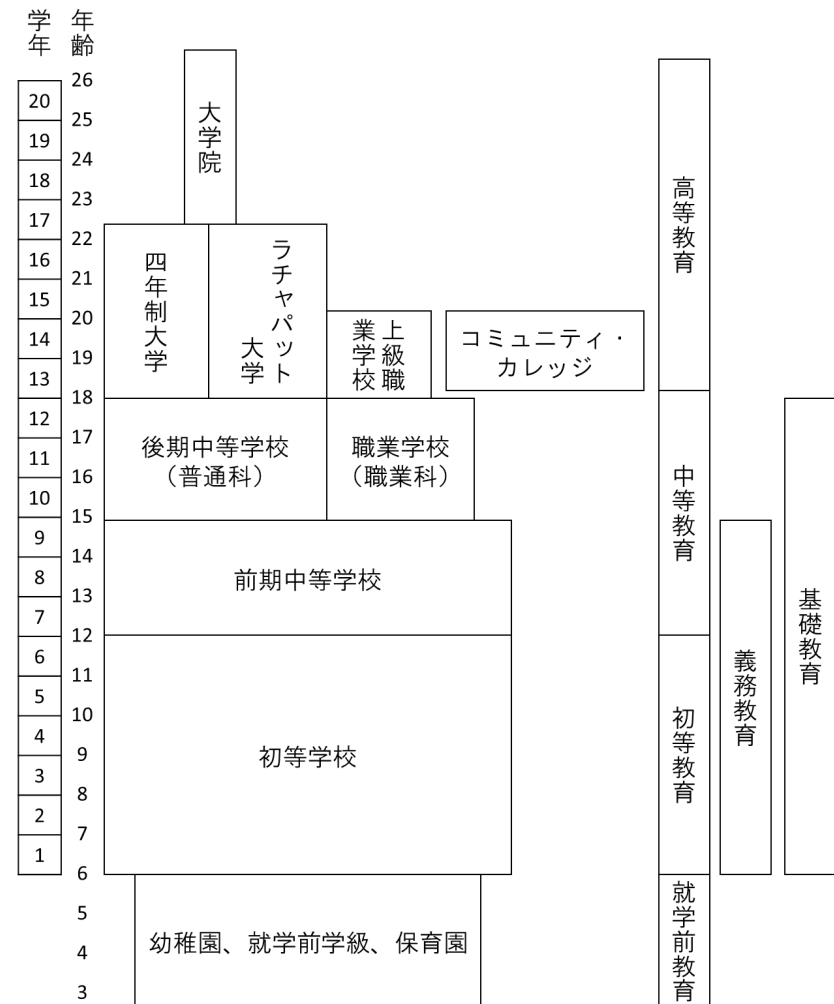
maki@hiroshima-u.ac.jp

内容

1. 教員養成年限の**延長**（4年から5年課程へ）
2. 教員養成年限の**短縮**（5年から4年課程へ）
3. 学校管理職・教育行政官の**修士レベル化**

学校教育の概要

- 6－3－3制
- 義務教育9年間
- 高校までを含む12年間を基礎教育
- 純就学率96%
- ヨコ学歴社会



1. 教員養成年限の延長

タイの教員養成

- 1892年師範学校創設（お雇い英国人校長）
- 教員養成の「三層構造」（岩田2005）
 - 専門大学＆総合大学（地方拠点大学）・・・6大学
 - 旧教育大学（旧高等師範学校と分校）・・・5大学
 - ラーチャパット大学（旧師範学校）・・・38大学

参考文献：

岩田康之「タイにおける教員養成改革と教員資質向上策—現状と課題—」『教員養成カリキュラム開発研究センター研究年報』
Vol. 4、2005年、57～66頁。

グローバル化、質保証・質の向上

- タイ王国憲法(1997年)
- 国家教育法(1999年)
 - 教育専門職免許制度(2003年)
 - 教員、学校管理職、教育行政官、指導主事(視学官)の4種
 - 教育専門職の知識・経験の基準(2005年～)
 - 1年間の教育実習が教員免許状の要件(5年課程)
 - 修士学位が学校管理職・教育行政官の免許状の要件

参考文献:

堀内孜『タイ国における教育職員免許制度及び5年課程教員養成制度の実施過程に関する研究』平成15年度～平成17年度科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書、2008年3月。

研究に基礎を置く教員養成

- 教育機関は教育段階に相応しい効果的な教授学習過程の開発のための教員の研究活動を促進すること(国家教育法 第30条)
- 教員の知識・経験の基準の策定(2005年～)
 - 実践研究の明示
 - 教員養成カリキュラムへの反映(**2004年～**)
 - 教育実習(5年次)、アクション・リサーチを遂行

基準とカリキュラムの対応例

「教育専門職の知識・経験の基準」	教員養成カリキュラムの「教職に関する科目」
知識	
基準1. 教員に必要な言語と技術	
1) 教員のためのタイ語 2) 教員のための英語またはその他の外国語 3) 教員のための情報技術	教員のためのタイ語 教員のための英語 教育情報技術
基準2. カリキュラム開発	
1) 教育哲学・理論 2) タイの教育行政の歴史 3) タイ教育開発の展望と計画 4) カリキュラム理論 5) カリキュラム開発 6) カリキュラムの規準と基準 7) 学校別カリキュラムの開発 8) カリキュラム開発の傾向と諸問題	カリキュラム開発入門 教育の基礎と専門職としての教員
基準3. 学習管理	
1) 教授法の理論 2) 学習モデルと教授モデル開発 3) 学習経験の設計と管理 4) 学習要素の統合 5) グループ学習による統合学習 6) 学習管理のための技術・知識 7) 教材の開発・使用ならびに学習改善革新的手法の開発 8) カリキュラム開発の傾向と諸問題 9) 学習評価	教授・学習の設計と運営 各教科教育法※
基準4. 教員のための心理学	
1) 人間の発達に関する基礎的心理学 2) 教育心理学 3) 指導と相談のための心理学	教育の心理学的基礎 教員のための心理学と特別支援教育

基準とカリキュラムの対応例(続)

基準5. 教育測定・評価	
1) 教育測定・評価の原理と技術 2) 教育測定・評価ツールの開発と使用 3) 真正な評価 4) ポートフォリオ評価 5) パフォーマンス評価 6) 形成的・総括的評価	教育測定・評価
基準6. 学級経営	
1) 管理経営の理論と原理 2) 教育的リーダーシップ 3) システム的思考 4) 組織文化の学習 5) 組織内の人間関係 6) 組織内のコミュニケーション 7) 学級経営 8) 教育の質の保証 9) チームワーク 10) 学術的プロジェクトの企画・運営 11) 職業訓練プロジェクトの企画 12) 開発のための活動やプロジェクトの企画 13) 経営のための情報整備 14) コミュニティ開発のための教育	教育と持続可能な社会開発 経営と教育的リーダーシップ
基準7. 教育学研究	
1) 研究に関する理論 2) 研究の諸モデル 3) 研究の設計 4) 研究のプロセス 5) 研究のための統計 6) 授業研究 7) 疑似研究 8) 研究成果の発表 9) 学習管理プロセスの改善に資する調査研究の精査 10) 問題解決への研究プロセスの応用 11) 研究プロジェクトの提案	授業研究 教育に関する統計と情報

基準とカリキュラムの対応例(続)

基準8. 教育に関する革新的手法・情報技術 1) 学習の質の向上のためのコンセプト、理論、技術、革新的手法 2) 技術と情報 3) 革新的技術や情報の使用から生じる問題についての分析 4) 学習資源とネットワーク 5) 革新的手法の設計・製作・試行・評価・改善	各教科教授法における革新的手法※
基準9. 教職の意義 1) 教員の重要性・役割・職務・仕事量 2) 教職の発達 3) 模範的な教員の特徴 4) 専門職としての教員に対する態度形成 5) 教員としての潜在能力・能力の強化 6) 学習者ならびに学術的リーダーとしての教員 7) 専門職基準 8) 専門職倫理規程 9) 教育関係法規	教育の基礎と専門職としての教員
経験	
基準1. 教職体験	
1) 持てる全ての知識を総合的に用いた教職体験への取り組み 2) 観察・聞き取り調査・情報集約による学習者の教育計画の立案・実施結果の報告 3) 学校との連携協力を通じたカリキュラムの改善・試行 4) 学校との連携協力を通じた学習指導案の作成 5) 学校の学習管理に関連する活動の運営 6) 学術的プロジェクトの立案・実施	教育実習1
基準2. 教育実習	
1) 持てる全ての知識を総合的に用いた教育実習への取り組み 2) 学習者に重きをおいた学習指導案の作成 3) 学習過程の管理 4) 学習管理に応じた教材・革新的手法の選択・開発 5) 学習管理における技術・戦略の活用 6) 学習成果の測定・評価 7) 学習者を発達させるための授業研究の実施 8) 学習管理や学習者の質の改善のための評価結果の活用 9) 学習管理の結果の記録・報告 10) 教育に関するセミナー	教育実習2

参考文献:

牧貴愛「タイにおける教育専門職免許制度の特質」『別府大学紀要』第55号、2014年、154～156頁。

教員養成カリキュラムの変化

	1995 (4 年課程)	2004 (5 年課程)
一般教養	40	33
専門科目	97	129
教職	26	51
教科	71	78
選択科目	6	6
合計	143	168

- 教育実習8単位 × 2(4年後期～5年後期)
- タイ語、英語、ICT、アクションリサーチなど

課題(現場での受け止め)

- 実践研究についての学生、指導教員(大学と実習校)の認識、理解の改善
- 学生の実践研究に対する理解の改善(研究＝定量研究、妥当性、信憑性への疑念)
- 講義内容、評価、期待される役割についての共通理解
- 課程認定と認証評価の基準間の整合性(PCK、個業、STEMなどの学際性)
- 教師教育者の授業改善(研究者養成、学校教員としての勤務経験)

課題はあるものの定着しつつあった？

- 当初6年課程構想、見合う待遇の保証が困難なため5年課程（堀内2008）
- 奨学金は1期のみ支給（堀内2008）
 - 財務当局が難色
 - 政権交代（2000年～）
 - 不平等な配分
- 教職を強く志す学生が入学（5年間の学士課程）
- 教師教育者も応え、質の高い教員輩出につながっていたのでは。。。

2. 教員養成年限の短縮

2018年12月の教育大臣の「政策」

- 教員養成年限の短縮**政策**
 - 社会は急速に変化
 - 5年は長い



出典: <https://pr.swu.ac.th/?p=868>

การผลิตครูคุณภาพเป็นเลิศ หลักสูตร 4 ปี จะทำให้เป็น
จริงได้หรือไม่? : โดย ดิเรก พรสีมา

NEWS

“หลักสูตรการผลิตครู 5 ปี หรือ 4 ปี ดีกว่ากัน”

教員の知識・経験基準の変化

2005

- **9 知識基準**
- 24 経験基準

2013

- 11 知識基準
- 17 経験基準

2019

- **6 知識基準**
- **24 経験基準**



教員の知識・経験基準

	2005年版	2013年版	2019年版
知 識			
基準 1	教員のための言語とテクノロジー	教員としての心構え	世界、社会の変化と「足るを知る経済」
基準 2	カリキュラム開発	教育哲学	発達心理, 教育心理, 教育相談, 学習者の能力開発
基準 3	学習経営	言語と文化	教科内容, カリキュラム, 教授法, 学習指導におけるデジタル・テクノロジー
基準 4	教員のための心理学	教員のための心理学	学習成果の測定・評価, 問題解決と学習者の発達を促すための研究
基準 5	教育測定・評価	カリキュラム	タイ語の運用, コミュニケーションのための英語の運用, 教育のためのデジタル・テクノロジーの活用
基準 6	学級経営	学習・学級経営	教育の質保証の設計と実施
基準 7	教育学研究	学習改善のための研究	
基準 8	教育イノベーションと IT	教育イノベーションと IT	
基準 9	教員としての心構え	学習成果の測定・評価	
基準10		教育の質保証	
基準11		道徳・倫理・倫理規程	
経 験			
基準 1	教職体験	教職体験	教職体験
基準 2	教育実習	教育実習	教育実習

実践研究の知識とコンピテンシー

	2005年版	2013年版	2019年版
主要な知識	①研究に関する理論 ②研究の諸モデル ③研究の設計 ④研究のプロセス ⑤研究のための統計 ⑥実践研究 ⑦研究演習 ⑧研究成果の発表 ⑨学習管理プロセスの改善に資する調査研究の精査 ⑩問題解決への研究プロセスの応用 ⑪研究プロジェクトの提案	①研究の原則・指針・規則 ②学習改善のための研究の活用と研究成果の産出	①問題解決と学習者の発達を促すための研究
コンピテンシー	①教授学習に研究成果を活用することができる。 ②学習者の発達を促したり、教授学習を改善したりするための研究を行うことができる。	①教授学習に研究成果を活用することができる。 ②教授学習の改善や学習者の発達を促すための研究を行うことができる。	①研究成果を取捨選択して学習指導に活用することができる。 ②教授学習の改善や学習者の発達を促すための研究を行うことができる。

参考文献:

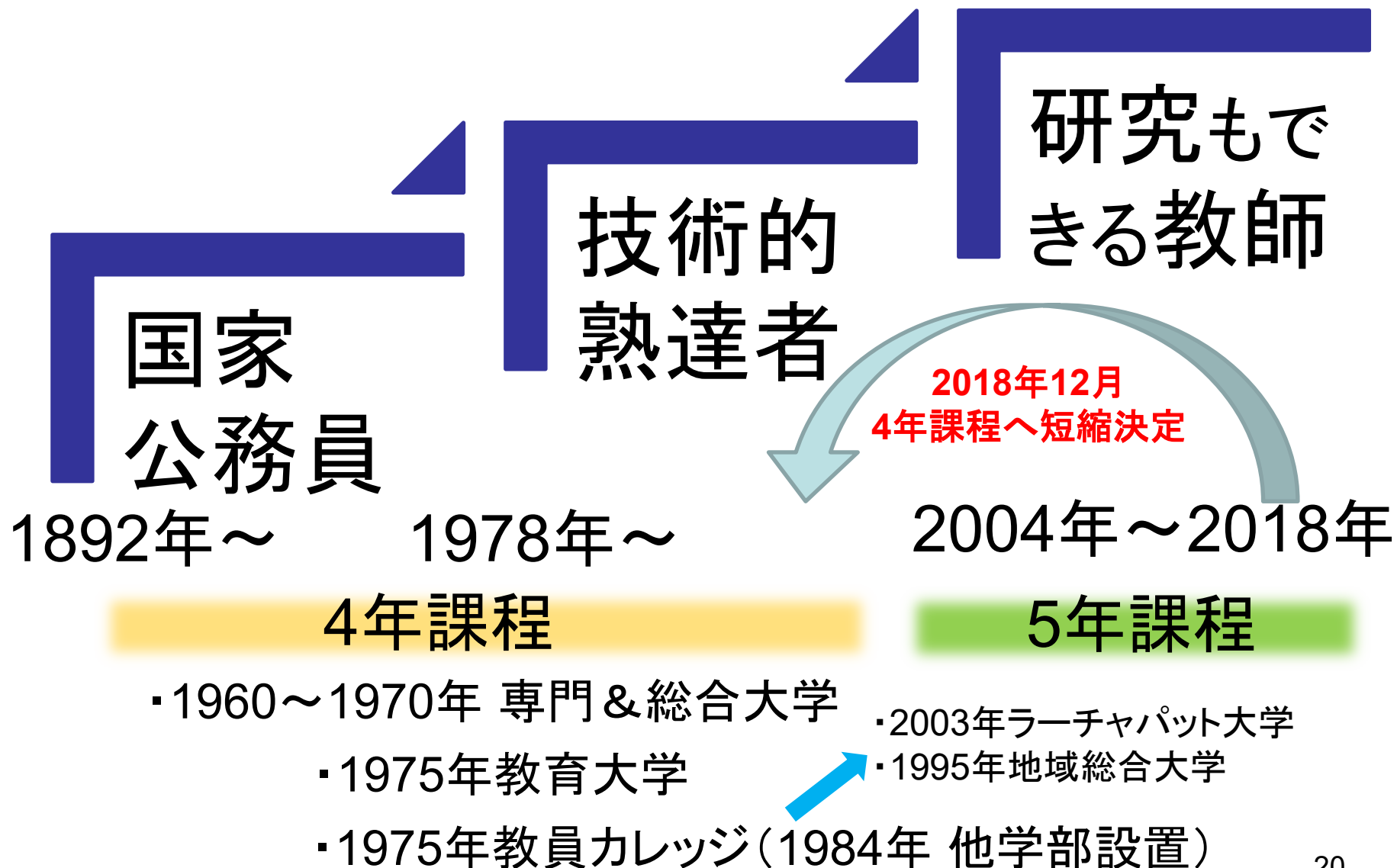
牧貴愛(2020)「タイにおける「研究に基礎を置く」教員養成の制度的基盤—実践研究を中心に—」『広島大学大学院人間社会科学研究科紀要「教育学研究」』第1号、246-255頁。

教員養成カリキュラムの変化

	1995 (4 年課程)	2004 (5 年)	2010 (5 年)
一般教養	40	33	33
専門科目	97	129	129
選択科目	6	6	6
合計	143	168	168

	2012 (5 年)	2015 (5 年)	2019 (4 年課程)
一般教養	30	30	30
専門科目	132	131	95
選択科目	6	6	6
合計	168	167	131

教師像の変遷



混乱(2019年2月頃)

- 校長の呼称変更(school directorからhead teacherへ)
- 教員免許状の変更(licenseからcertificateへ)



出典:

<https://www.kruachieve.com/%e0%b8%82%e0%b9%88%e0%b8%b2%e0%b8%a7%e0%b8%81%e0%b8%b2%e0%b8%a3%e0%b8%a8%e0%b8%b6%e0%b8%81%e0%b8%a9%e0%b8%b2/%e0%b8%aa%e0%b8%a3%e0%b8%b8%e0%b8%9b%e0%b8%84%e0%b8%a7%e0%b8%b2%e0%b8%a1%e0%b9%80%e0%b8%ab%e0%b9%87%e0%b8%99%e0%b8%a3%e0%b9%88%e0%b8%b2%e0%b8%87-%e0%b8%9e%e0%b8%a3%e0%b8%9a-%e0%b8%a8%e0%b8%b6%e0%b8%81/>

教員テストの導入(2020年～)

- タイ語
- 英語
- ICT
- 専攻分野



- 4年課程の卒業生が受験

3. 学校管理職・教育行政官の修士レベル化

教育専門職免許状(2003年～)

- 教員
- 学校管理職(自律的な学校経営)
- 指導主事(視学官)
- 地方教育行政職員



学校管理職免許状の要件(2005年～)

- 教員経験5年
- 教育行政学の学士以上の学位 = 修士
※教育行政学の学士学位は提供されていない。
- 42単位(修士論文は選択)
- 夜間・週末に開講

学校管理職の専門職基準

基準1	職能開発
	1. 学校管理職としての自覚、学校経営の専門職としての成長の方向性を見出している。 2. 職能開発に資する学修・研究を遂行することができる。
基準2	学術的リーダーとしての心構え
	1. 教育のために資源を活用できる。 2. 教育を経営し、地域と関係を構築することができる。
基準3	学校経営
	1. 政策、計画、戦略を策定し、学校のコンテクストに合わせて実行することができる。 2. 経営に関する理論、原理、プロセスを巨視的かつ地勢的なコンテクストに合わせて選ぶことができる。 3. 教授学習を支援するために教務、学習環境をマネジメントすることができる。

学校管理職の専門職基準(続)

基準4	カリキュラム・教授学習・学習評価
	1. カリキュラム開発、新しい教授学習のマネジメントができる。 2. 学習評価を実施し、カリキュラム・マネジメント、学習マネジメントができる。
基準5	学習者活動
	1. 学習者開発活動をマネジメントでき、学習者をケアすることができる。 2. 組織全体の規律・道徳・倫理・団結を涵養することができる。
基準6	教育の質保証
	1. 外部評価のための自己評価報告書を編纂することができる。 2. 学校評価結果を学校の質の向上のために活用することができる。
基準7	倫理規程
	1. 品行の手本としての立ち居振る舞い、公共の精神、社会貢献、奉仕の意識を持つ。 2. 専門職倫理、規程に沿って行動することができる。

現場での受け止め

- 私学も含めて大規模(定員1,000人を超える)大学院課程が開設(堀内2016)
- 3万校のうち6割は「臨時」「仮」の校長(堀内2016)
- 課程認定と実態の乖離(定員超過の問題)
- 世代によっては、大学教員に転身
 - ベビーブーマー、X世代(タイの伝統的価値観)
- 世代によっては(法人化以降)学校管理職を継続(博士号をもつ学校管理職も多い)
 - Y世代、Z世代

長期的な展望が難しい

- 2022年5月のバンコク都知事選
- 次年度、総選挙
- 教育大臣の頻繁な交代
- 愚痴をこぼしつつも…



出典: <https://www.chadchart.com/>

ขอบคุณครับ



HIROSHIMA UNIVERSITY

